

## 会議概要

令和3年10月20日

件名	令和3年度第2回鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会	作成課	観光交流局観光交流部 グリーンツーリズム推進課
日時	令和3年10月12日（火）10時00分～10時50分		
場所	みなと大通り別館6階ソーホーAB会議室		
出席者	協議会委員10名（欠席4名） （学識経験者、旅行業関係者、グリーン・ツーリズム実践者、関係機関、公募委員など）		
市出席者	委員：観光交流局長 事務局：観光交流部長、グリーン・ツーリズム推進課長、他関係職員		
会次第	1 議事 （1）第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画素案について 2 その他		
主な意見等	<p><b>(1) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画素案について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「稼ぐ」という言葉が使われているので、JR九州などで行われている地域・県を跨いで今実際に稼いでいるような取組とコラボするとか、「嬉野茶時プロジェクト」のように地域にある資源を組み合わせ活用して稼ぐ取組や高級感のある取組を、ぜひ展開していただけたらよいと思う。インバウンド客が今後増える中で、鹿児島市を世界へどう発信するかということもご検討いただきたい。 ⇒あまり知られていない鹿児島の地域資源を生かせる取組、プレミアムな体験メニューの開発等、他事例を参考にし、他団体・民間企業等と連携しながら取り組んでいきたいと考えている。</li> <li>・宿泊学習や修学旅行を県内で実施する学校がこの2年間で定着化してきた中で、基本方針2「マイクログリーン・ツーリズムの推進」の③の中に周辺自治体や市内、県内学校等との連携強化ということで、教育旅行の受入強化が明記されている。長期的にみると、経済効果だけでなく、県外に出た子どもたちによるPRや、いずれ帰ってくるなど間接的に人材としての財力となることにもつながるので、具体化させ実行させてほしい。また、鹿児島市にはまつもと茶があり、民間やグリーンファームのイベント等とタイアップするなど、売り出し方も具体性をもって展開していくとよい。</li> <li>・SNSのフォロワー数は、具体的に仕掛けていかなければなかなか伸びない。例えばハロウィンの時期はハロウィンに関する記事をアップさせるなど、細やかな対応が必要となる。また、外国人はインフルエンサーでなく一般の方でも、見た目にインパクトのある桜島大根などの写真を上げるだけでかなり拡散した事例もある。そういった方々を絡めていくと増えていくのではないかと。</li> <li>・ナイトタイムイベントや早朝の体験イベントの創出はいいことだと思う。目標指標の1番目に登録団体等における売上額が来っていて、稼げる体験メニューの展開となると、一般の方が読んだときに、単純に体験メニューそのもので稼ぐということだと捉えてしまわないか。実際には、体験メニュー単体ではなくそれを目当</li> </ul>		

てに人が来ることで観光収益が上がるということだと思っている。補足で書いてあるから大丈夫かもしれないが。

⇒おっしゃる通り体験メニューだけではなくその波及効果、ナイトタイムや早朝メニューがあることにより滞在時間の延長やそこからさらに足を延ばすなど地域全体での観光消費額の増加を考えており、体験メニューは手段の一つと捉えている。

- ・波及していくなどの意図は、現在の記載から汲み取れないこともないが、見えづらい。主な取組が上の文章の繰り返しになっている箇所もあるので、もう少しイメージしやすい言葉の補足が必要だと考える。

⇒事務局にて加筆・修正を行う。

- ・インバウンドへの対応として、現在ハード面の整備等が記載されているが、インバウンド客が何を求めてくるのかといった情報分析等が必要だと考える。ソフト面の取組もインバウンドへの取組として必要ではないか。

⇒ソフト面での取組について記載する方向で事務局にて検討する。